病害虫情報第９号

平成 30 年 8 月 22 日
岐阜県病害虫防除所

チャバネアオカメムシ新世代の飛来に注意！！

岐阜・西濃地域１地点および中濃地域１地点（全調査地点４地点）において、果樹カメムシ類によるヒノキ毬果口針鞘数が、8 月中旬の調査で果樹園への飛来の目安となる 25 本/果を超えています（表）。そのほかの地点も増加傾向にあることから、餌不足となったチャバネアオカメムシ新世代が、果樹園に飛来する危険性が高まっています。

また、岐阜・西濃地域、中濃地域、および東濃地域でチャバネアオカメムシの誘殺数が、7 月末から増加傾向にあります（図 1）。

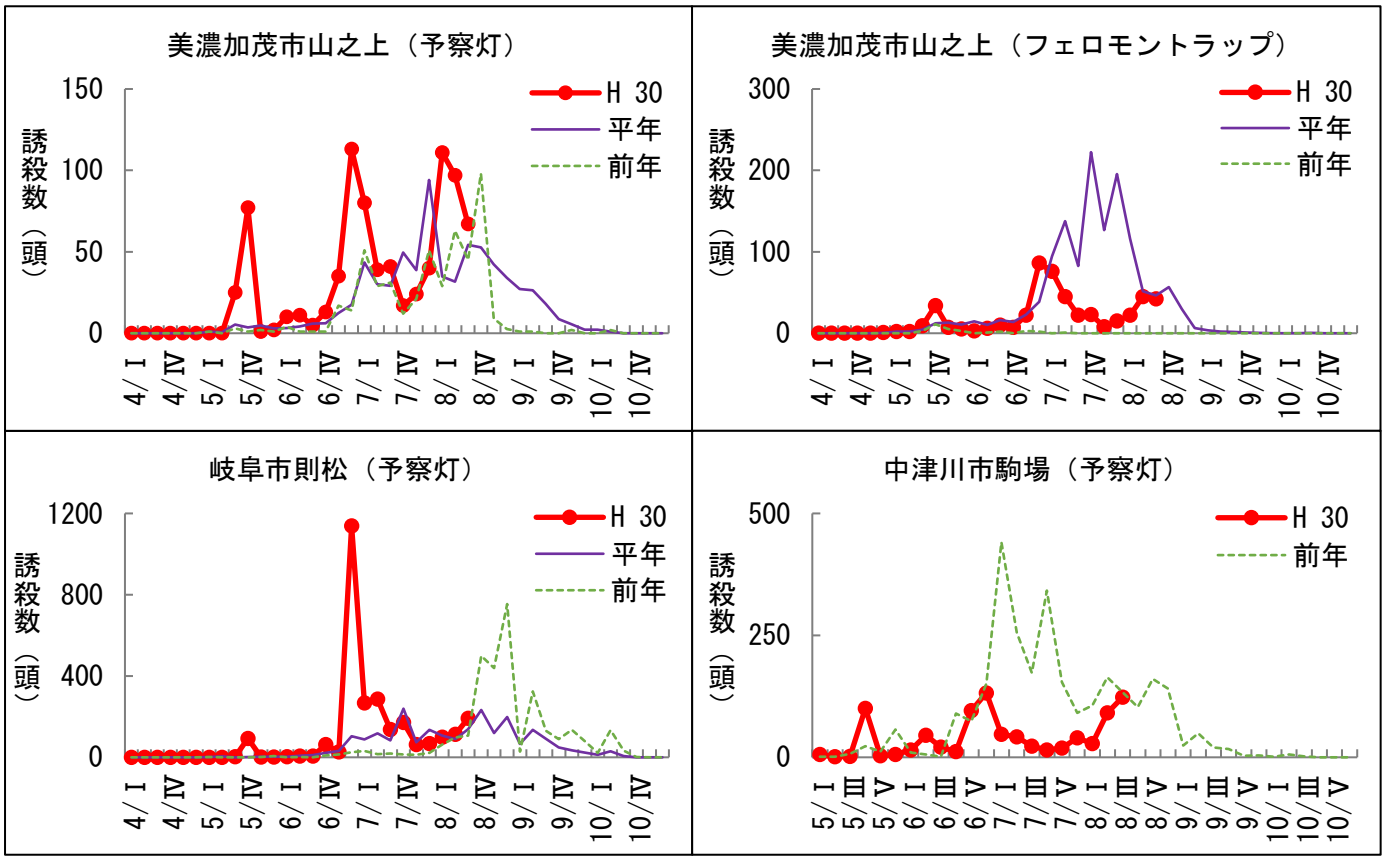
今後、果樹園への飛来状況に十分注意し、飛来を確認した場合は、直ちに防除を実施してください。

表　ヒノキ毬果口針鞘数　（単位：本，H30）

調査日	岐阜市 東秋沢	大野町 寺内	美濃市 曽代	美濃加茂市 山之上町
7/上	0.00		0.00	0.00
7/中		0.00	0.93	0.00
7/下	1.67	5.07	10.66	0.03
8/上	18.86	14.13	26.80	2.10
8/中	20.26	29.20	26.90	10.07

注 1）1 地点 30 毬果を調査し、1 毬果当たりの平均を記載
注 2）空欄は未調査

なお、今年は 8 月 7 日に病害虫発生予察注意報第 3 号「果樹：果樹カメムシ類（主にクサギカメムシ）」を発表しています。チャバネアオカメムシと同様に、クサギカメムシの飛来も十分に注意してください。
http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index_12127.data/20180807_NO3chuuihou_kajukamemushi.pdf



注 1）　中津川市駒場は H29 から設置のため、平年値なし

注 2）　今年は、8 月第 3 半旬までのデータ

図 1　各地域のチャバネアオカメムシの誘殺

ヒノキ毬果口針鞘

カメムシ類に吸汁されたヒノキ毬果は、図 2 の矢印で示したように白く痕になって残ります。これはカメムシ類が吸汁するときに出した消化液が固まったもので、「口針鞘」と呼ばれています。ヒノキ毬果の場合、この口針鞘数が 1 毬果あたり 25 本を超えると餌として適さなくなるといわれています。そのため、7 月頃から口針鞘数を調査して、チャバネアオカメムシ新世代成虫が果樹園に飛来する時期の目安にしています。

図 2　ヒノキ毬果のカメムシ類による口針鞘

果樹を吸汁するカメムシ類として、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシなどが知られています。その中でも、チャバネアオカメムシは美濃地域の優占種です。

チャバネアオカメムシの生活環

冬季、チャバネアオカメムシは成虫で越冬します（図 3）。4 月頃、気温が温かくなると動き出して餌を探索し始めます。5 月にサクラ果実が結実するとそちらに移動して、吸汁します。サクラ果実が成熟して落果すると、クワやキリ、スギ、ヒノキなどに移動します。この時、サクラ果実が早期に成熟して落果すると、クワ、キリの果実がまだ結実しておらず、餌を求めて果樹園に飛来する場合があります。

7 月にヒノキやスギの毬果が結実するとそちらに移動して、産卵します。幼虫はヒノキやスギの毬果を餌として成長し、産卵から約 1 か月後、成虫になります。一般的に、今年新たに産まれた成虫を新世代成虫と呼び、昨年度に越冬した成虫を越冬世代成虫と呼びます。

成虫になると飛翔能力を獲得し、餌を求めて移動します。成虫は幼虫と同様にヒノキやスギの毬果を餌としますが、カメムシ類に吸汁された毬果は劣化し、餌として適さなくなります。するとチャバネアオカメムシは餌を求めて、ヒノキやスギ林から離脱し、果樹園へと飛来します。

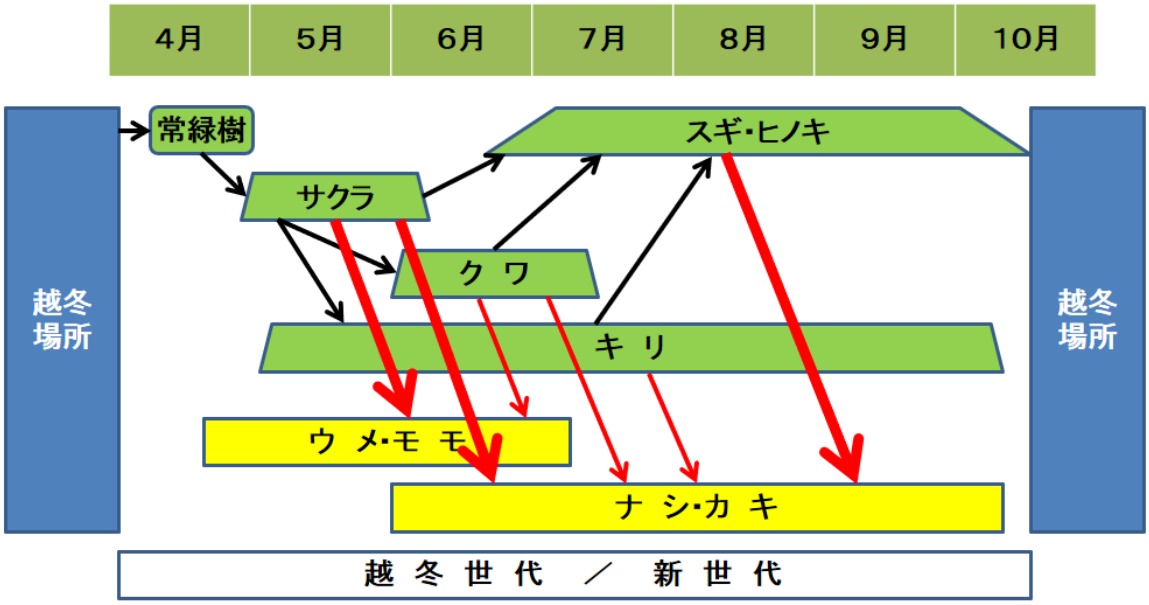


図 3　チャバネアオカメムシの季節的推移

・農薬の使用にあたっては、最新の登録内容を確認し、適正に使用してください。
農林水産消費安全技術センター
http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm
・当所のホームページに発生予察情報、病害虫調査データなどを掲載していますのでご活用ください。
岐阜県病害虫防除所
http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/